

# 新潟開港150周年記念 みなとまち新潟 歴史探訪⑦

問歴史文化課(☎025-226-2584)



## 冬の新潟湊

寒さの厳しい冬の3カ月間、新潟湊に回船の出入りはほとんどありません。冬の日本海は波が荒く、船が航行できないからです。強烈な寒風が吹き荒ぶ新潟の市中は、寂しく静かでした。

江戸時代から明治時代の初めまで、旧暦の10月(今の11月ころ)になると、信濃川河口の左岸にはたくさんの船が引き上げられて並びました。これを「囲い船」と言います。

下の絵は、初代新潟奉行として赴任した川村修就が、新潟の風俗を描かせた「蟹の手振り」の中の一場面です。船に何本も綱をかけて、大勢の人々が船を陸に上げて囲い船の作業をしている様子が分かります。冬の間、船は菅や茅で編んだむしろですっぽりと覆われます。100隻余りの船が葦を並べたように並ぶ壮観な様子は、冬の新潟の風物として印象的だったことでしょう。

これらの船は旧暦の2月(今の3月ころ)半ばから湊に下ろされ、順に大きな白い帆を上げて海に乗り出していきます。春になると新潟に北国第一と言われた湊の賑わいが戻ってきます。



囲い船の様子(「蟹の手振り」(歴史博物館みなとぴあ蔵)より)